

木津川運動公園（北側区域）の計画見直しに係る懇話会 第3回懇話会議事録

日 時：令和2年9月16日（水曜日）午前10時00分～午前11時45分

場 所：メルパルク京都 会議場A「京極」

出席者：（木津川運動公園（北側区域）の計画見直しに係る懇話会委員）増田委員長、青木委員、秋田委員、伊澤委員、今西委員、星野委員、堀井委員、三井委員、藤田委（web会議）

（京都府建設交通部）市田技監、岸田都市計画課長、岸都市計画課参事 他

（京都府山城北土木事務所）村田所長 大西道路計画課長 他

<議事>

（1）サウンディング結果等の報告、公園の新たな整備方針、公園整備エリアと導入機能について

事務局より資料説明

（2）公園の基本計画（パブリックコメント素案）について

事務局より資料説明

（3）意見交換

（委員）（1点目）資料1の14頁は、すごく良いまとめ方と感じた。基本機能のウォーキング・ランニングコース、サイクリングステーションで、「障がいのある人でも一緒になって活動・交流できる」とあるが、車いすの方や視覚障がいのある方も利用すると思うので、障がいのある方が困らない、全ての方にとって活動しやすい公園になればと感じる。

（2点目）資料1の15頁で、子どもにとって自然環境はとても大事なことと思う。測定調査結果から、コロナ禍において、学校が始まっても子ども達のストレスは高い。子ども達が、思いっきり木登りや遊び、レクリエーションを楽しめ、心身の健康に寄与できるような公園が良い。

（事務局）（1点目）資料ではランニング・ウォーキングコース等のみを示しているが、その他公園を構成する基本的な施設として園路、駐車場やトイレ等も予定しており、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等の基準に準拠した整備を行う。

（2点目）「広く自由に使えるというような公園」では、南側は自由広場、北側は365日ではないが自由に使える大規模屋根付き広場があり、民間による有料施設を作りつつ無料エリアもしっかり確保していきたいと考えている。

（委員長）付け加えると、これからはWi-Fi環境なども整備し、ICT技術を使った視覚障がいのある方への音声案内などユニバーサル化を意識すると良いと思う。

（委員）（1点目）サウンディング調査の結果で、「施設利用者からの利用料で施設設置・運営可能、いくらかの借地料負担も可能」の回答が2者あるとあるが、どのような業態か。

（2点目）屋根付施設の規模はどのくらいになるのか。

(3点目) 南北を繋ぐ連絡橋は歩行者通行のみで自動車の通行はできないのか。北側の駐車場が示されていないと思うが、駐車場は足りるのか。

(4点目) ランニングコースは周回型にして欲しい。

(5点目) 調整池は入り口付近にあるが、もう少し西側に振るなどできないか。

(6点目) 府南部全体を見渡しても宿泊施設がないので、地域活性化、地域の振興を図るためにもホテルは適当だと思う。

(事務局) (1点目) 2者は、詳しくは答えられないが運動施設関係である。

(2点目) 屋根付施設は、直径70m程度の円形を考えている。

(3点目) 南北連絡橋は、都計道東部丘陵線の4車線道路を歩行者が横断するのは危険だと考え企画したもので、歩行者用の通路と考えている。南側区域の駐車場は現状不足する日もある。車の動線は、東部丘陵線から信号処理で北側区域に入れるのと、一番北側の府道山城総合運動公園城陽線から北側区域に入れるようにしたいと考えている。民間公募の関係で詳しくは示していないが、イメージ図の灰色部分辺りが駐車場と想定しており、南側区域の実績も踏まえながら北側区域の駐車場もしっかり確保していきたい。

(4点目) イメージ図に示しているのは園路のみであるが、ランニングコースは、御意見も踏まえて設計を行っていきたい。

(5点目) 調整池の位置は設計の中で決めていくことになるが、技術的には河川の下流側に設けた方が効率が良いこともあり、現段階ではこの位置に設けている。

(6点目) 基本機能は、主に無料の施設で公園として最低限必要な施設として考えている。宿泊機能については追加機能の対象になってくると考えているが、民間が事業採算性を確保できる中で判断されることが重要であり、公募の際には考えていきたい。

(委員長) (5点目) 調整池の形状は大きな課題であり、効率の良いボックス型の調整池もあるが、修景機能や水面利用を考慮することの重要性はあると思う。

(委員) 将来が楽しみな計画だと思う。平時は問題ないが、事故などが起こったときに連絡を受けるオフィスや機能は、休憩所のあたりに設置されるのか。

(事務局) 現在、南側区域に公園センターがあるが、それをもう少し機能強化した施設を連絡橋の上がり口か、あるいはもう一棟設けるかの形で考えている。いずれにしても管理する公園職員が駐在する場所など必要でありしっかり確保していきたい。

(委員長) それに関連して、従来の公園管理だけの公園管理事務所ではなく、現在の南側区域のような公園のイベントやマネジメント、あるいは訪問者が利用案内などを受けられるビジターセンター的機能の兼用は不可欠だと思う。

(委員) (1点目) 今の子ども達を見ていて、体を使った遊びが圧倒的に足りないので、しがみつくと、這い上がる、体を縮こませる、バランスを取るといった体の発達に関わる遊びが自然とできる遊具を取り入れて頂きたい。自然地形を利用した森林エリアでは、年齢が上がれば探検など、計画のバランスは良い。

(2点目) コロナ禍においてテレワークが進み、休憩時間には子どもと遊びながら、パパはパソコンで仕事ができるようなWi-Fi環境を取り入れるのも良い。

(3点目) 子育てエリアは、子ども遊具だけでなく大人も使える簡単な雲底や鉄棒などの遊具も設置し、親子のふれあい(子どもの親へのあこがれ)や、20~50

才代の健康増進、中高生の体力づくり、世代間交流が自然とできるような工夫をお願いする。

(4点目) ママさん達のサークルやお友達同士で来たときに、打ち合わせをしながら子ども達と遊べるようなWi-Fi環境、机やいすなどがあると良いと思う。

(事務局) (2、3点目) サウンディング調査の中でも、大人が働きながら子どもの面倒をみるワーケーションや、クラブをしていない中高生の行き場となる遊具のアイデアも頂いているところ。公募の段階で検討していきたい。

(事務局) Wi-Fi環境については、新しい働き方ということで、以前に、Withコロナ・Postコロナ社会における施策の方向性について委員長にヒアリングした際にも提案を頂いた。資料1の16頁に現在考えているところを追加機能として記載しているが、今後公園ができるまでに5Gなど通信機器の発達も考えられ、先に提案があった障がいのある方への配慮も先に進むとの期待もあり、民間からの提案が固まり過ぎないように、現段階ではあまり詳しく書き込んでいない。

(委員) エリア(機能)毎に資料がまとまっており仕方がないと思うが、それぞれ明確な境ではなく、一体感のあるような曖昧な部分を活用して頂きたい。

(委員長) 付け加えると、生活支援や子育て支援では基本的にサードプレイスが良いとされており、行き場所のない、居場所のない子育ての母親あるいは子ども達に、地域の中でサードプレイスを如何に提供できるかが、今後の地域活性化、子育て支援として大きな意味を持つかもしれない。

(委員) この部屋に誰一人としていない子供たちのために我々は今議論しているのであって、子ども達の未来の為に私たちは残すものとして考えなければいけない責任を感じ意見を述べる。

(1点目) 30年前に当時の最先端や縦割りセクターの中で造られ、維持管理が大変な施設をいくつも利用者として目にしている。できるだけハードは小さく、ソフトは大きくが大事だと思う。また、子育てや地域の賑わい等の項目は、府の各部の所管に跨がる計画であり、縦割りの采配で負の遺産とならないようにすべき。

(2点目) ハードを設置する際には、捨てるゴミになる直線型の消費材ではなく、循環される資材選び、今の子供たちが大人になったときにその遊具で地球を汚さない形の、責任を持った物品を揃えるべきだと思う。

(3点目) 京都府や多くの企業が参加する事業だが、城陽市で作られるものだから、城陽市内の産業、中小企業、商工会などが継続して足並みが揃えられるよう、最初から地域企業と連携した形でソフトも開発するのが良いと思う。

(4点目) コワーケーションスペースを導入するも、なかなか利用されない事例もある。テレワークを行う際に不向きな場所もあるので、パイロットモデルとしてフットワーク軽くやってみるのが良いと思う。

(5点目) ITやIoTの導入に関して、トプラインの5Gなどの大きなものは必要なく、公園で整備するのであれば3GやWi-Fiなどでも可能であり、通信コストを考えたIoTの推進が必要と思う。大規模施設ではIoTを活用した点検も有効であり、大雨時や部材毎に設定した周期の点検など期間の確率論によらないメンテナンスによりコスト縮減も可能となることが実証されている。

(6点目) 自転車に関しては、たくさんの事故の可能性が潜んでいる。近くには障がい者支援施設も有り、先ほど意見のあった車いす利用等を考慮したサイクリングロード、あるいは危機管理が必要だと思う。

(委員長) 資料を見ていると、こんな機能を導入するといったハード整備がパブリックコメントの基本材料になっている。屋根付広場、ランニングコース、自然遊びにしても、全部ソフトがないと機能していかない。プログラムの提供によって初めて生きた公園となるが、その提供は民間のプラスアルファだけで、基本機能とプラスアルファ機能が上手く一体的な表現になっておらず、説明を加えないとハードばかりの従来型の公共事業「箱物行政」に見えてしまわないかと危惧する。

資料2の18頁(3) 実現化施策・ツールの項に、今指摘のあったLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方までを含めた施設整備の視点を充実した形で書き込む必要がある。

今の御指摘を踏まえながら、特に18頁のあたりを充実させ、今後の可変性や柔軟性、物を作って終わりではなく、物を作ったときがスタートでその後のマネジメントのあり方、民間や地域基礎自治体との連携はどうするのか、地域産業との関係性はどうかなどを書き込まないといけない。パブリックコメントの前に、その辺を整理しないとイケない。

(委員) (1点目) 全体としては、子どもから年配の方まで、あるいは天気の時も雨の日も、休日も平日も配慮され、バランスが取れた基本機能を配置されていると思う。

(2点目) 新名神、スマートIC、アクセス側道が令和5年度の供用に向け順調に進み、アウトレットモールも8月に着工、青谷でも物流施設の基本構想が提出され、このゾーンが近畿の中でも新しい特徴的な場になると思う。

そのため、オンリーワンであり、この公園に来たいと思わせる売りのようなものが不可欠と思っている。それには基本機能の目玉となる民間の誘導が成否をにぎる。木津川右岸の文化もひとつの視点として捉えてもらい、民間誘導の中に取り込んでもらえたら良いと思う。

(事務局) 総括すると各委員の同一の視点だと思う。我々としても、子育て、地域、健康づくりなど実際の利用者、進出される民間の視点に立って考えていきたい。

ハードを作って終わりの計画に見えてしまうと言うことで、御意見を踏まえ記載を充実させるなど考えて参りたい。民間に加えてこの公園と周辺の関係性を見ながら、アウトレット、将来構想エリア、城陽市の商業施設や農協、庁内との連携も、計画を一定示す中で対話を行いながら図っていきたい。

(委員) いろいろな意見を拾い、様々な利害関係者との調整を取れば取るほど角が取れて、総花的な案になっているのが率直な印象としてある。このエリアにある様々な公園も含めた考え方にした方が良いと思う。ジョギングコースやシニアの健康運動ができる公園は既にあると思う。結論として、ユーザーターゲットやテーマを絞り込んで、機能を特化した方が良いのではないかなと思う。子育てや子供の教育、健康推進につながる、子どもの為にというところをフォーカスすべきだと思う。

(事務局) これまで懇話会で議論された、幅広い人々に使って頂く位置付けで、南側区域と一体となった北側区域のあり方を検討していきたいと考えている。御意見を受け

て、魅力ある公園とするためにもある程度の特化は必要と思う。御意見のあった子育て支援は、今後の府の施策として重要であり、柱をどれと決めるのではなく、それぞれの強弱やバランスを考えながら進めていきたい。

(委員長) 資料2の18頁の(3)で、まだ実現化方策・ツールのレベルではないと思う。実現化方策よりも、パブリックコメントにかけた後、どのようなシナリオで計画を進めて行くか書くべきだと思う。今ある程度想定されるプランを書いているが、さらにもう一度どのような絞り方するのかのプロセスがあって、民間企業や基礎自治体との対話の継続、ブラッシュアップしていくときのシナリオの考え方というレベルを書く方が良く、このパブリックコメントの持っている意味が伝わりやすい。

(委員) (1点目) 今日の資料にもあるコロナの時代の公園の使い方に関しては、8月末に国土交通省都市局において、コロナに関するまちづくりの方向性について、有識者にヒアリングをしている。その中で本日提案のあった働き方や健康づくりの方向性の意見があり、実務的、政策的に考えても同じ方向にあると感じた。

(2点目) 本公園は、防災上の位置付けがされている。例えば直径70mの施設も、支障が出て使い勝手が悪くなることも、防災上の観点で使いやすくなることもありうると思うので、前提条件として防災の位置づけをこの中に入れることを考えておくべきと思う。

(3点目) 先ほど御意見のあった、尖らせる、絞り込みといったところに関連するが、資料2の12頁の公園の需給状況を踏まえた方向性で、この公園に何を求めるかで、スポーツに限らず、周りの施設や公園の状況も踏まえるべきと思う。

(事務局) (3点目) 他の部分についても少しパブリックコメントに向けて検討する。

(委員長) (1点目) 今の話の中で、Withコロナと同時に、自然災害、防災の機能は非常に求められている。事前復興的な形の公園づくり、あるいはSDGs、Society5.0でスマート化とかIoT、ICTの導入は、今の社会状況では必ず踏まえないといけない視点であり、資料2のII章の方向性の整理で強化した方が良く、先ほど御意見のあった30年先、50年先を見据え、一気に作り上げてしまうのではなく、小さくつくって育てていく、あまり重装備ではなく柔軟に対応できるような、しなやかな公園づくりを目指すことも必要と思う。

(2点目) パブリックコメントの意見を広く頂くために、今の膨大な頁数を読むのは大変なので、概要版を作成したほうがよい。また専門用語が多いので、解説を入れたほうがよい。

(事務局) (2点目) 概要版、用語解説を付加する。また、パブリックコメントで多くの意見が出せるように方法論を考える。

(事務局) 城陽市とも連携して、できるだけ意見を入れられるようやっていきたい。

(委員長) 基礎自治体の広報のようなものを活用しながら行うのも大きな意味がある。

(委員) SDGs未来都市に選ばれた舞鶴市では、市役所、市内の中小企業経営者、高校の先生生徒、農業従事者の計16人で、まちづくりに関して月1回のワーキングを行っている。そのようなことも、今からでもできると思う。

(委員) あまりデータに基づいても拡散すると思うので、トップダウンで子育てやシニアなどある程度の方向性だけでも決めた方が良いと思う。その中で、ハードウェア以外のソフトウェア面についてどのように運用していくのかを考える。例えば、子育てや子どもをターゲットにするのであれば、野外活動や遠足へのニーズを調べるなどをし、最初の入口をトップダウンで決めて絞り込んだ形でパブリックコメントをすれば、ソフトウェア開発の参考になるのではないか。パブリックコメントの最初から絞り込んだ方が、答え方も答えやすいと思う。

(委員長) 私から付け加えたい。

(1点目) まずは途中で何回か出てきた地域物産館だが、城陽市の特徴である農業生産が活発な面を、子育てと食育につなげると良い。

(2点目) 森林エリアの管理では落ち葉などが出てきて処分が必要となるが、農業体験の重要性として、里地と里山を一体化すれば、コンポスト化して物質循環を子どもが体験でき、農業を地域の産業として食育も関連させて見せられる可能性があり、機能として加えても良いと思う。

(委員長) 全体のまとめを行う。

(1点目) 個別の施設、基本機能に関して、特に健康あるいは子育ての視点で有意義な御発言を頂き、地域生活との連関など、どう計画に盛り込んでいくのか御議論を頂いた。

(2点目) その次の展開として、コロナ禍だけでなく刻々と変わろうとしている社会情勢を受けてどう公園が進むかを、府民にどのように理解してもらうか考えないといけない。

(3点目) まだ今はどのような資本投下をして、どのようなマネジメントして、どのような経営が成立するのかを定められる段階にはないが、それに対して、どのようなシナリオを考えているのかを検討する必要がある。

本日は、社会情勢のニーズへの対応について、多くの施設数が集積する中での優位性、特性の活用など、みなさんから大きく意見をいただいた。パブリックコメントが年末年始に掛けて予定されており時間がないため、今日いただいた貴重な御意見をパブリックコメント素案に盛り込んだ正案づくりに関しては、委員長と副委員長に一任していただきたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

(4) スケジュールについて

事務局より資料説明

(5) 閉会

以上